

私たちの社会と香り

横山香料株式会社 代表取締役社長 よこやま 横山 ちあき 千秋



時に「香りの時代」とも言われるように、今日、香りは身の回りのさまざまな場面で利用され、生活に潤いを与えています。子供たちは、匂いに対してストレートに反応するものではないでしょうか。給食のおいしそうな匂いを胸いっぱい吸い込んだり、匂い付きの文房具を大事にしたり、また、嫌な臭いにはキャーキャーと騒いだり。制服通学の学生も、自分らしさを表現するために、シャンプーを香りにこだわって選ぶ人も少なくないようです。大人の世界でもアロマに惹かれる方が増えて、心地よい香りを楽しみながら、リラクゼーションや睡眠の質の向上など、さまざまな効果が暮らしに取り入れられているといいます。

1 においの役割

生態系の中で、生き物が生きていくためには、においが無くてはならないものであることは言うまでもありません。動物は、食物のにおいを嗅ぎ当て、においによって消化液の分泌も促されます。腐敗して食べてはいけない物も、においで判別することができます。マーキングすることで縄張りを示したり、臭い分泌物を敵にかけて身を守ることも、異性をにおいで惹きつける例も知られています。

植物にとっても、においは重要な役割を持っています。花の香りは受粉を助けてくれる昆虫を集め、実った果実は甘い香りで鳥や動物を誘い、食べられて、動物の糞の中で種子が運ばれて繁殖します。

最近では、新型コロナウイルス感染症の特別な症状の一つに、嗅覚障害がありました。においがしないと何を食べても美味しくなく、食べることが辛くなるという話も聞かれました。においの役割の重要性を改めて思い知らされたものです。

2 嗅覚と脳の働き

ヒトの嗅覚の仕組みについて説明しましょう。においは、鼻腔の奥にある嗅上皮と呼ばれる粘膜に分布する受容体で感知され、電気信号となって脳へ伝達されます。この信号は、大脳の奥深くに存在する大脳辺縁系に届き、扁桃体と呼ばれる情動を司る部位や、海馬と呼ばれる記憶を司る部位に直接伝わり、自律神経をコントロールする視床下部へも強く影響することがわかっています。

これに対して、視覚や聴覚は、大脳皮質（知覚、思考など高次機能）を経由して大脳辺縁系へ届くことが知られています。これらの脳の伝達経路の違いから、香りの刺激は人間の感情や本能に直接影響を及ぼすものであり、また、においをきっかけに昔の記憶が呼び起こされるような、特別な感覚であることが認められているのです。

3 香料とは

香料は、人が香りを自在に扱えるよう、発展して来た材料です。天然物由来の精油や抽出物、また、化学的に合成された数多くの芳香性化合物を原料として、多くの場合は、調

合によって目的に合わせた香りが創り出されます。香料は用途によって、食品香料（フレーバー）と化粧品香料（フレグランス）に大別されます。口に入って摂取されるものと、肌に触れるもので、それぞれ安全性の評価基準や関連法規も異なるため、区別して扱う必要があるのです。

フレーバーは飲料、菓子、各種の加工食品や歯磨き粉などに、フレグランスは化粧品、トイレタリー製品、洗剤、芳香剤などに利用されています。また、産業用分野として、畜産場や廃棄物処理場の臭気の緩和や、ガスにおいを付けて漏れた場合に危険を知らせる目的にも香料が活用されています。

香料が果たす役割は、フレーバーの場合、着香、補香、マスキングの3点が挙げられます。よりおいしい食品の風味を実現するために魅力的な香りをつけるほかにも、食品加工や流通の過程で損なわれてしまう、素材本来の香りを補うためにも利用されます。また、健康食品など、そのままでは素材の風味が悪く摂取し難い場合や、食品の製造過程で加熱臭など好ましくないにおいが生じる場合がありますが、香料を使用することによって異風味をマスキングする効果も得られます。

フレグランスの役割は、人々の衛生的で快適な生活を支える一方、ファッションの一部として自らの魅力を表す手段として利用されて来た、文化的にも長い歴史があります。

ところが数年前から、いわゆる「香害」と呼ばれる事象が取り上げられるようになりしました。代表的なものは洗濯に使われる柔軟仕上げ剤で、強い香りが持続するものがブームとなりましたが、その香りが原因で体調不良に陥り、生活に支障を来たすまになった人々の問題が報道されています。

消費者団体から、行政や洗剤業界へ対策を

求める訴えが行われており、香料業界も厚生労働省からの問合わせに協力しているところですが、2000種に及ぶ香料の成分と発症の因果関係や、問題視されているマイクロカプセルの影響についても未だ説明が行われていないため、規制や対応が困難なことが現状となります。

最近では、社会的に問題への理解も広がったためか、人々の香りの使い方も以前より控えめになったように感じられます。あえて香りをつけない柔軟剤や「自分にだけ香る」というコンセプトの製品も発売されています。

昔から、香水をつける時のマナーとして、病院へ行く際や、食事を楽しむ席では控えるべきと言われて来ました。香りはTPOに配慮して、独りよがりとならない楽しみ方をしていただくことが大切と言えるでしょう。

4 これからの時代の香り

においは、人にとっても生きていく上でなくてはならないもの、嗅覚は重要な感覚であることは前述の通りです。

これからの社会が抱える大きな問題として挙げられるものの中に、世界的な食糧問題や高齢化社会における健康維持が含まれていますが、これらにも香りの技術は広く貢献できるものと考えられています。

ストレス社会の現代こそ、心や本能に直接訴える香りを、日々の生活の中でゆっくり感じ取って頂きたいと思います。それは、自然の中のほのかな香りであっても、技術者が創り出した美しい香りであっても、それぞれに価値があると言えるのではないのでしょうか。

私共香りの作り手は、これらからも、社会に健康で豊かな生活をお届けしたいと願い、一層の研鑽を重ねて参ります。